



町長日誌

No.242

町長日誌の第242号です。町長が日頃町民の皆さんと話し合ったことや色々な出来事を町長自ら書いたものです。町民皆さんのご意見・ご要望・ご感想をお待ちしています。

12月13日 (水曜日) AM10:00

溜まっていた書類の決裁が終わりこの日誌を書いています。月曜から札幌出張で昨日は旭川駅から石北線に乗車して遠軽駅まで久々の石北線の旅でした。午後4時から遠軽厚生病院の運営員会に出席するためです。客車は以前よりグレードアップしたものの、やはり乗客は少なく遠軽で降りる人も僅かでした。路線の存続を私たちは訴えています。乗客が少ない事にはJRの経営は成り立ちません。私たち首長は公の場で「不採算と言う考え方は良くない！ 過疎地だからこそ広い農地で食料を作り、自衛隊を受け入れ演習ができる。そのためのJRの不足分は国が負担すべき！」と言うのですが国は民間会社であることを盾に応じようとはしません。存続の方向が決まったJR貨物も運営赤字負担分の協議となると話が前に進まないようです。遠軽厚生病院は現在133床を休めて204床で稼働し、29名の医師が勤務しています。ほとんどが旭川医大の医師ですから石北線の存廃は病院の行く末をも左右する話なのです。

12月10日 (日曜日)

ハマナス幼稚園のクリスマス祝会に出席しました。コロナが落ち着いたことから大勢のご家族が来場されていましたが、実はインフルエンザが園児にも多く発症し親からは延期の要望もあったようです。幸い休んだ子供が少なく練習不足な子もいましたが園児たちの熱演を見させていただきました。保育所のお遊戯会と異なり幼稚園は劇を演じてくれます。年長のひまわり組は「スーホのしろい羊〜プップの思いで」と言う題の劇です。舞台はモンゴル、悪い王様が自分の欲望の為に草原や豊かな自然を乱開発しだします。主人公スーホが住む村もとうとう開発されようとしています。視察に来た王様はスーホが買っていた真白な毛の羊（プップ）が欲しくなり無理やり連れて行ってしまいます。しかし、プップは王様に懐かず暴れて逃げ出します。怒った王様は家来に殺すよう命じ矢を放ちます。矢をあびたプップは血だらけになりながらもスーホのいる村に逃げ帰り息絶えます。村人たちは悲しむスーホを慰めプップの白い毛で毛布を織りいつまでもプップを忘れまいとします。その後王国は乱開発がたたり異常気象となり作物が取れず食べ物にも困った王様一行が寒い冬空に草原で行き倒れとなります。それを見つけた村人たちは助けようしますが王様と判ったスーホは拒みますがプップの優しさを思い出してプップの毛でつくった毛布を掛けて王様を助けるのです。助けられた王様はプップを殺したことを詫言いスーホや村人に頭を下げて草原を元に戻すことを誓います。～まあ、ざっとこんな内容であったと思うのですが、「プップ」は幼稚園で園児が世話をしていた羊の名前で、残念なことに10月に亡くなってしまったのです。そこで、この劇の原作は「スーホの白い馬」と言うモンゴルの伝説を基にしたもので、殿様に殺された白い馬の皮でスーホが馬頭琴と言う楽器を作るというお話でしたが、子供たちが可愛がっていたプップを白い馬に変えて作った劇でした。プップのことを思い出しながらの熱演でしたから私も思わず涙して観てしまい、今回日誌で紹介した次第です。園児の皆さん素晴らしいクリスマスプレゼントありがとうございました！ プップ、天国で安らかに眠ってください。

この日誌が読まれている頃は皆様お揃いで新年をお迎えのことと思います。今年も一年間お世話になりました。令和6年辰年が素晴らしい年になりますよう心からお祈り申し上げます。新年のご挨拶は広報誌「年頭のご挨拶」に変えさせていただきます。どうか良いお年を！ では、また来年。

お便りをいただく場合は、適当な便箋等を封筒など（使い古しのもので構いません）に入れ、封をして、役場窓口か、お知り合いの町職員にお渡し願います。町長のみ開封とし、お返事をさせていただきます。不明な点は、総務課総務係まで。TEL 82・2131です。

